

<シンポジウム>

漁業における灯光利用の現状と課題
～ 光で魚を誘い獲る技術・制度の再構築に向けて ～

日時・場所 平成 20 年 3 月 31 日 (月) 9:20～17:30 第 11 会場 (8 号館)
企画責任者 稲田博史 (海洋大)・有元貴文 (海洋大)・飯田浩二 (北大院水)・
長島徳雄 (海洋水産システム協会)

- 9:20～ 9:30 開会の挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・有元貴文 (海洋大)
I. 灯光利用漁業を支える研究の視点 座長 長島徳雄 (海洋水産シス協会)
9:30～ 9:50 1. 漁業用灯光の要求仕様・利用技術・・・・稲田博史 (海洋大)
9:50～10:10 2. 対象生物の対光行動・・・・・・・・有元貴文 (海洋大)
10:10～10:30 3. 対象生物の光感覚・・・・・・・・長谷川英一 (水研セさけます)
10:30～10:50 4. 漁場海水の光学的特性・・・・・・・・森川由隆 (三重大院生資)
10:50～11:10 質疑
II. 光源・灯具・関連測器からみた灯光利用漁業 座長 飯田浩二 (北大院水)
11:10～11:30 5. 放電光源・・・・・・・・中野邦昭 (GY ライティング)
11:30～11:50 6. LED 光源・・・・・・・・清水義則 (日亜化学工業)
11:50～12:10 7. 船上漁灯・・・・・・・・藤原里美 (東和電機製作所)
12:10～12:20 質疑
13:00～13:20 8. 水中漁灯・・・・・・・・臺田 望 (拓洋理研)
13:20～13:40 9. 操業船下・周囲の光環境計測・・・・・・・・柏 俊行 (CT&T)
13:40～14:00 10. 魚探・ソナーによる対象種の
対光行動モニターリング・・・・・・・・鉛 進 (古野電気)
14:00～14:20 質疑
III. 漁業種による灯光利用の現状と課題 座長 有元貴文 (海洋大)
14:20～14:40 11. サンマ棒受網漁業・・・・・・・・井上太喜 (マルイ水産)
14:40～15:00 12. イカ釣り漁業・・・・・・・・四方崇文 (石川水総セ)
15:00～15:20 13. 旋網漁業・・・・・・・・保田井 真 (日本遠旋漁協)
15:20～15:40 質疑
IV. 水産行政・技術開発支援からみた
灯光利用漁業の展望 座長 稲田博史 (海洋大)
15:50～16:10 14. 長崎県の取り組み・・・・・・・・平野聖治 (長崎県水産部)
16:10～16:30 15. 国の取り組み・・・・・・・・平石一夫 (水産庁海洋技術室)
16:30～16:50 16. 漁灯利用技術の適正化・・・・・・・・長島徳雄 (海洋水産シス協会)
16:50～17:20 総合討論 稲田博史 (海洋大)・有元貴文 (海洋大)・飯田浩二 (北大院水)・
長島徳雄 (海洋水産システム協会)
17:20～17:30 閉会の挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・稲田博史 (海洋大)

企画の趣旨

光で対象種の行動を制御し、1 夜・1 隻当たり 100 トンを超す食糧・養殖餌料の生産にも直結する灯光利用漁業は、日本の海面漁業生産量 440 万トン (H18 年) のおよそ 1/5 を水揚げしている。これらの灯光利用においては、漁船間の光量競争傾向と燃油費の急騰による操業コストの増大を抑え、排ガスによる環境負荷を軽減することが緊急課題である。

このシンポジウムでは、漁業用灯光に関わるユーザー、メーカーおよび行政・研究の担当者が一堂に会して現状と課題を共通認識とし、ハード・ソフトの両面から連係をとって問題解決に迫る。併せて、水産食糧の自給率向上を図る国や自治体の漁船漁業構造改革の視点に環境問題・世界情勢を含む大局観を加えて灯光利用漁業の再構築を展望する。